

令和 2 年度

公立大学法人 業務実績評価書

令和 3 年 8 月

福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

年度評価の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	4 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

年度評価の考え方

1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）ごとに、中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
- 3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
- 2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
- 1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

2 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、3事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和2年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、九州歯科大学では、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育や、地域歯科医療従事者に対するリカレント教育を行うとともに、地域の中核病院等との連携を強化し、包括的な地域歯科保健医療体制の構築を推進している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けることとなったが、理事長のリーダーシップのもと遠隔授業、臨床実習等に臨機応変に対応し、教育研究への影響を最小限にとどめることができた。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の令和2年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

歯科医療の高度化・専門化や高齢化社会の進展等、多様化するニーズへの適切な対応が求められる中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより地域貢献の充実に向けた取組を一層推進し、地域歯科医療の中核となる大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成
 - ・高校における生物の未履修者を中心とした学修支援を実施し、その教育効果をもとに、新入生スタートアップ学修支援プログラムを構築し、実践的歯科医療人としての意識の向上に繋げるなど、初年次教育の充実に取り組んでいる。
 - ・モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえ、診療参加型の臨床実習を展開するとともに、医科歯科連携実習を多く取り入れ、病院だけでなく介護老人保健施設での実習や、救急車同乗など近年の社会的ニーズに対応できるプログラムを導入するなど、実践的な歯科医療人の育成に力を入れている。
 - ・コロナ禍により遠隔授業の実施に向けた履修規程の見直しや評価基準の明確化を行うとともに、感染症対策を講じた臨床実習を適切に行うことにより、学生の学力の維持に取り組んだ。
 - ・臨床実習前に必要な能力を評価するステューデント・デンティスト認定制度に係る実施体制の整備や、デジタル歯科シミュレーターを活用した臨床技能評価実施に向けた準備を行っている。
 - ・学生の成績を分析したうえで学修支援を行い、令和2年度の歯科医師国家試験合格率（対出願者数）が全国29大学中4位と高水準であったほか、歯科衛生士国家試験合格率が引き続き100%であった。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成
 - ・アドミッションポリシーに応じた人材の選抜を行うため、大学院の募集要項を、志望する研究分野を確認できるよう改訂するとともに、面接試験を複数の分野の面接者を配置して多様な視点から行うようにするなど、改善を図っている。
- (3) 教職員の教育力向上
 - ・教員に対しラーニングコモンズを活用した教育方法の周知を行い、座学教育からグループ学習へ転換することにより学生の修学意

欲の向上につながる科目を増やすとともに、新たなオンライン教材も導入するなど、教育活動の改善に努めている。

(4) 意欲のある優秀な人材の確保

- ・令和2年度から取り入れた3つの学生選抜方法において、それぞれの求める人材に応じた入試方法を工夫するとともに、コロナ禍において、WEBオープンキャンパスやオンライン進学相談会を実施した。さらに、広報誌 **Platys** を活用して広報活動を充実させるなど、優れた人材の確保に取り組み、令和3年度歯学科入学試験の志願倍率が全国的にも高い倍率となった。

(5) 学生の学修及び生活支援

- ・コロナ禍において、教職員と保健師、学生相談室のカウンセラーが連携し、充実した学生支援を行うための体制を確保するとともに、アンケート調査や学生自治会との意見交換、新入生の助言班活動を通じて早期に学生の問題を把握するなど、きめ細かな対応を行っている。

(6) キャリア支援

- ・口腔保健学科において、希望職場への就職活動を支援する体制を充実させるとともに、民間企業や総合病院等への就職を開拓し、引き続き就職率100%を達成した。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学術誌への論文掲載数、科学研究費補助金の応募数、獲得数ともに目標を上回るなど、研究活動の充実に取り組んでいる。
- ・地域医療調査研究センターを立ち上げ、地域の医科歯科協働体制を推進するとともに、寄附講座を開設し、歯周病予防と全身疾患との関連にかかる研究を展開している。

3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域の中核病院とオンラインを活用した医科歯科連携を強化するとともに、県下の歯科医師、歯科衛生士を対象としたオンデマンド方式の講習会や歯科医師会との講演会開催など、地域連携に努めている。
- ・口腔保健・健康長寿推進センターにおいて、北九州市内の歯科開業医からの相談にオンラインで対応するとともに、附属病院内の地域包括歯科医療センター等において、地域中核病院への訪問診療を行うなど地域ニーズを踏まえた連携の充実に取り組んでいる。
- ・北九州地域の地域包括ケアシステム構築に資するため、医科歯科連携を一層充実させるとともに、さらに北九州市の中核病院と協力して、小児期の医療分野における医科との連携も進めている。また、歯科検診受診率向上に向けて地域の経済団体等との連携の充実を図っている。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、スマートフォンを活用して学生の健康状態を毎日確認するとともに、遠隔授業や遠隔会議のシステム導入などの対策に取り組んだ。
- ・附属病院の総合診療科の組織再編を行い、臨床教育を充実させるとともに、電子カルテシステムを活用し、包括歯科診療に関連する動画教育素材のアーカイブ化を推進した。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・全学説明会で決算状況を説明し、大学全体で適正な予算執行に努めているほか、コロナ禍において附属病院収入が減少する中、インテリジェンスツールを用いて診療単価データの分析と結果のフィードバックを行うことにより、診療単価の上昇に繋がった。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・令和元年度に設置した内部質保証委員会を定期的を開催し、理事長のガバナンスのもと、PDCAサイクルが効果的に機能するよう取り組んでいる。
- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、3事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和2年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（教育）について「特筆すべき進捗状況にある」、5項目（研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、福岡女子大学では、クォーター制導入後のカリキュラム改定、教育の場としての寮活動の充実、女性のキャリア形成のための教育プログラム等を実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けることとなったが、円滑な遠隔授業への移行や全寮制教育の維持、オンラインによる海外交流大学とのプログラムの継続、独自の学生支援など、教育研究への影響を最小限にとどめることができるよう、きめ細かな対応を行った。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の令和2年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡女子大学は、令和5年の創立100周年に向けて、社会から高く評価される大学づくりに全力で取り組んでいる。

引き続き、国際的な感性を持ち、主体的に活躍できる女性の育成を目指し、実効性の高い取組を一層進められることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

教育については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を上回る取組や、充実した教育を推進するための積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

(1) 学士課程

- ・クォーター制のメリットを生かし、幅広い学びを提供するための文理統合科目や、大学の教育理念を具現化するためのリーダーシップ開発科目を重視した新たなカリキュラム（令和4年度入学生から適用）を作成した。
- ・これまでの「学術英語プログラム」を、英語を駆使する態度と力を育成するための「学術&キャリア英語プログラム」に再構築するとともに、入学後の丁寧な指導により、多くの学生の入学後のTOEFL成績の伸びに繋がっている。
- ・体験学習について、正課での取組に加え、学生委員等準正課・課外活動について整理し、教職員に周知するとともに、動画やパンフレットを制作し学生の理解も深めた。
- ・「国際学友寮 なでしこ」での寮活動について、状況に応じてオンライン形式と対面形式を使い分け、学生の主体性を引き出しながら実施した。また、新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底し、後期からの全員入寮に繋がった。
- ・遠隔授業に対応するため、教員間で協議や講習会等を行い短期間で実施体制を確保するとともに、学生をサポート役として参加させ、円滑に遠隔授業を行った。
- ・食・健康学科において、実験機器の整備など専門教育を充実させるとともに、管理栄養士国家試験の合格率が3年連続で100%を達成したことを評価する。
- ・食・健康学科の学生が、福岡県や企業と連携し、福岡県産食材を使ったメニュー開発に取り組むなど、大学で学んだ知識を活用し、企業や行政と協力した活動を行うことで、モチベーションのアップに繋がった。

(2) 大学院課程

- ・人間環境科学研究科において、領域横断の科目を設定しオムニバス形式で実施したほか、自らの研究について、分野の異なる大学

院生や教員と討論することにより、研究の深化を図った。

(3) 教育活動の活性化

- ・遠隔授業を公開し、教職員が見学してその後の授業方法の改善に役立つ活動や、遠隔授業の成果や課題を共有する会議等を行い、教職員一体となって授業の質の向上に取り組んでいる。

(4) 意欲ある学生の確保

- ・コロナ禍において、動画配信を主としたオープンキャンパス特設サイトを開設しただけでなく、人数等を限定した来校型のオープンキャンパスも行い、好評を博した。また、オンライン相談会を実施し、学生によるプレゼンテーション等を行って学生確保に取り組んだ。

(5) 学修支援・学生生活支援

- ・学内で連携して学修ポートフォリオの活用を図ったほか、ラーニングコモンズを活用して、言語習得、社会人講座、学習相談等の機会を提供し、主体的学修を支援した。
- ・教職員が連携して学生のメンタル面のケアを強化するなど、コロナ禍における学生生活を支援した。
- ・遠隔授業への移行に際しての準備金として、全学生に対し、福岡女子大学基金（独自基金）から3万円を給付した。また、前期入寮していた留学生に対し、人と接触機会のあるアルバイトを禁止することに伴う寮費相当の支援（6か月分、計9万円）を行った。

(6) キャリア形成の支援

- ・コロナ禍において中止となったインターンシップの代わりに、学生に社会人向けプログラムを聴講させ、社会人とのディスカッションの機会を設けるなど、キャリア教育の維持に努めた。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・研究の活性化を図るため、個人研究費の配分方法を見直すこととしたほか、学内の競争的資金の活用も継続して行っている。学術誌への論文掲載数は目標を上回っている。
- ・「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の枠組みを活用し、コロナ禍においても国際的な研究交流を継続した。
- ・科学研究費補助金の申請件数、獲得件数ともに目標を上回るなど、外部研究資金の獲得を積極的に進めている。

3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、新型コロナウイルス感染拡大の影響が見受けられるものの、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・女性のキャリアアップ支援のための「女性トップリーダー育成研修」を実施した。また、再就職支援のための「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」を行い、雇用に繋げている。
- ・出前講座やイングリッシュ・キャンプ等、高校との教育連携の推進や、生涯学習カレッジの開講、地域コミュニティとの連携事業等に取り組むとともに、図書館で企画展を開催するなど、大学の知的資源を地域に還元している。
- ・コロナ禍において学生の海外派遣が困難な中、交流協定校のプログラムの一部をオンラインで受講できる環境を整えたほか、イングリッシュ・ビレッジによる疑似留学体験機会の提供、留学説明会や相談会の開催により、留学への意欲の継続に繋げた。また、令和2年4月までに、海外にいた学生を全員帰国させるなど、的確なリスクマネジメントを行った。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・教職員に対する標的型攻撃メール訓練を実施するなど情報セキュリティ対策を進めている。また、窓口へのパーテーション設置等新型コロナウイルス感染拡大防止のための環境整備を速やかに行うとともに、学内での感染情報を正確かつ迅速に提供し、学生の不安解消に繋げた。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科研費獲得セミナー実施のほか、新たに科研費獲得者によるピアレビューや採択申請書の閲覧を開始するなど、科研費獲得に向けた支援を行い、一定の収入実績をあげている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学情報発信強化のため、ブログサイト開設やPR動画の作成を行うとともに、大学広報誌の内容を充実させ、配布先も見直すことで大学広報の推進に取り組んでいる。
- ・企業における大学のイメージについて把握するとともに、学生によるデザインでオリジナルグッズを開発するなどして、大学ブランドの浸透に力を入れている。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、3事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和2年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、福岡県立大学では、専門的職業人としての能力の育成はもとより、全学横断型教育プログラムの充実に取り組むとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業、学習ボランティアの派遣等、地域貢献活動を積極的に実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けることとなったが、年度当初からいち早く遠隔授業を導入するなど、迅速かつ機動的に対応し、教育研究への影響を最小限にとどめることができた。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の令和2年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で優れた成果をあげている。

引き続き、地域貢献活動等の取組を一層推進するとともに、教育研究の充実に向けた取組を推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
 - ・コロナ禍において、新入生に対するオリエンテーションで情報処理機器等の最低限の使用方法を指導したうえで、導入教育科目を遠隔授業形式で実施し、他の授業科目を学習する基盤を維持した。また、教養演習テキストの改訂や語学教育の強化に取り組むなど、教養教育の充実に取り組んでいる。
 - ・人間社会学部において、社会福祉士・精神保健福祉士の新カリキュラムに向けて実習・演習を充実させた実施計画を策定するとともに、総合人間社会コースにおいて、キャリア形成に関する新規科目を開講したほか、所定の条件を満たす学生には「学修証明書」を交付するルールを策定した。
 - ・看護学部において、新たにOSCE（客観的臨床能力試験）を用いて看護技術強化を図るとともに、学内に模擬病室やシミュレーションルームを整備するなど実習教育を充実させた。
 - ・看護師、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。
- (2) 高度専門職業人の人材育成
 - ・大学院生を対象とした満足度調査や座談会を実施し、改善を図ることにより、大学院修了時の調査で「総合的な学修成果の満足度」が高い結果となるなど、大学院教育の充実を図っている。
- (3) 教育活動の活性化
 - ・教員を対象とした遠隔授業に関するセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとともに、成績評価の適正さを確認するためのアンケートの作成や電子シラバスの整備など、教育活動の活性化に努めている。
- (4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・コロナ禍において、オンラインによるオープンキャンパスや個別相談会を活用して入試広報活動に取り組み、志願倍率が目標を大きく上回っただけでなく、合格者の出身地域の拡大にも繋がった。
- ・県立西田川高校と連携教育に関する協定を締結し、大学の授業を受講した高校生が、高校及び大学の双方で単位認定されることを可能にするなど、高大連携の取組を図っている。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・コロナ禍における全学的な遠隔授業を行うための環境を整備するとともに、eラーニングコース開設数を大幅に増加させ、学生利用率も上昇した。
- ・学生支援の窓口を一本化するため、新たに学生総合支援センターを開設した。

(6) キャリア支援

- ・キャリアマネジメント関連科目やプレ・インターンシップを充実させるとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため個別進路相談や就職説明会等を工夫して行うなど、きめ細かなキャリア支援に取り組み、就職率が高水準を維持している。また、就職・キャリア支援業務を一体化するため、新たにキャリアオフィスを設置した。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において、学際的研究プロジェクトを推進するとともに、地元自治体との共同研究を開始した。また、研究機能を強化するため、研究所組織の見直しを行っている。
- ・科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っており、外部研究資金の獲得に努めている。
- ・研究水準の向上を図るため、研究費の配分を見直し、重点領域研究の範囲の拡大、科学研究費申請補助の対象の拡大を行った。

3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師、社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修の実施に努めている。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターの相談件数が3,500件を超えているほか、キャンパス・スクール事業における登校開始率が過去最高となった。また、コロナ禍における新たな取組として、不登校児童生徒と学生ボランティアをテレビ会議システムでつないだ支援を行うなど、不登校・ひきこもりへの支援を積極的に行っている。
- ・地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した延べ人数が1,400人を超えるなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援している。
- ・防犯ボランティアサークル「オリオンズ」が、県警から「犯罪の起きにくい社会づくり」に多大な貢献をしたことにより団体表彰を受けた。また、県警主催の福岡ムービーアワード2020においてオリオンズ制作の「夜道の安全」が最優秀賞を受賞した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師を対象とした特定行為研修を令和3年度から開講するための研修室整備を行うとともに、学内実習を充実させるためのシミュレーションルームを確保するなど、学内施設を有効に活用している。
- ・遠隔授業導入に際し、ITに関する学生及び教職員からの相談対応、遠隔授業に関する学生アンケートに関する助言・指導等の業務委託を行い、事務の大幅な効率化を行った。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究助成事業に関する研修会を開催するだけでなく、当該研修会を録画し、教員がいつでも確認できるようにするなど、教育等に関する外部資金の獲得に努め、獲得額も目標を上回っている。
- ・教務システムの改修や業務委託の見直しにより経費削減に努めた。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学内における各種取組の現状や課題を明らかにするため、取組のP D C Aに関する記載書式を新たに設定したほか、大学の内部質保証を機能させるために組織体制を整備し、大学改革セミナーの開催を通して全学での取組を進めるなど、内部質保証システムによる大学の質の維持・向上に取り組んでいる。
- ・大学ホームページ等で高校訪問、入試説明会等の機会を通じて、大学の情報を広く発信しているとともに、大学内の新型コロナウイルス感染症の関連情報も発信するなど、学内情報のオープン化に努めた。